

シラバス(介護職員基礎研修)

事業者名 (社)徳島県労働者福祉協議会 課程編成責任者 山田 薫

研修区分 標準型(500時間)

科目名	(1) 生活支援の理念と介護における尊厳の理解	時間数	30
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 尊厳を支えるための専門職としての意識を持った行動がとれる ○ 利用者一人ひとりがその人らしい生活が継続できるよう、尊厳を支える介護を提供することができる ○ 利用者の生活意欲を引き出し、自立支援や介護予防の視点で介護を提供することができる ○ 学習した生活支援を目標に、創意工夫のある取り組みを行うことができる ○ 市民としての権利と義務をもち、社会生活を送る主体として利用者をとらえ、適切に対応、支援することができる 		
指導の視点			
<ul style="list-style-type: none"> ● 人生観や人間像の理解に基づいた尊厳を支える介護・福祉について理解させる ● 介護・福祉サービスを提供するに当たっての基本的視点の形成を促す 			
	内容	時間数	講師氏名
① 人間理解と尊厳	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間理解の視点、豊かな人間観(その人らしさ)、多様な価値観 ・ 老い、尊厳、死生観、性について 	2	田野 道子
② 生活の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活の定義 ・ 生活支援の考え方 	2	田野 道子
③ 福祉の支援の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの福祉の考え方の流れ ・ ノーマライゼーション、QOLについて ・ 家族介護から社会介護へ ・ エンパワメント、共生について 	6	田野 道子 大下 直樹
④ 介護の基本的な視点と意義	<ul style="list-style-type: none"> ・ 尊厳を支えるケア ・ 介護の定義 ・ 健康かつ主体的・能動的な生活に向けた支援 ・ ICFの視点に基づく援助 ・ 介護の専門性とチームケア ・ 介護職員の専門性 ・ 能動的な生活に向けた支援 	6	田野 道子 大下 直樹
⑤ 地域生活支援と保健・医療・福祉サービス及びインフォーマルな活動等とのトータルなネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての人を対象とする地域生活支援 ・ 地域アセスメント ・ 資源調整と啓発 ・ フォーマルサービスとインフォーマル活動等トータルなネットワーク 	7	田野 道子
⑥ 利用者の権利と尊厳	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の権利擁護(アドボカシー) ・ 虐待の防止 ・ 身体拘束の禁止 	7	田野 道子 大下 直樹

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(2) 高齢者、障害者等が活用する制度及びサービスの理解	時間数	30
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ サービスの種類、相談窓口、サービス利用の流れがわかり、利用者に正確に情報提供、助言等が行える ○ 法・制度の理解とサービスシステムの一翼を担う視点をもって業務が行える ○ 利用者の生活を支える適正なサービスのあり方について、制度の理念や主旨に沿って考えることができ、利用者や家族の理解を得ることができる 		
指導の視点			
<ul style="list-style-type: none"> ● 介護保険法、障害者自立支援法を中心とした高齢者、障害者の医療・保健・福祉制度及びサービスについて理解させる（「制度観」を醸成する。） ● 各サービスの役割と業務について理解し、利用者の立場に沿ってサービス利用の流れを理解させる ● 各地域の制度、サービスの現状・特徴について理解させる 			
内容		時間数	講師氏名
① 高齢者保険福祉制度と施策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者保健福祉の背景と動向 ・ 介護保険制度の概要 ・ その他高齢者保健福祉施設 		5	大下 直樹
② 障害者福祉制度と施策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者福祉の背景と動向 ・ 障害者保健福祉制度の概要 		7	大下 直樹
③ その他の制度・施策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療制度、年金制度、生活保護制度、児童福祉 ・ 住居と居住施策、地域福祉施策 ・ 成年後見、権利擁護、虐待防止などの制度・施策 		5	大下 直樹
④ 社会保障制度改革の背景 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人口の動向 ・ 負担と受給のバランス、世代間公平 		2	大下 直樹
⑤ 介護サービスの現状、動向、利用支援等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各サービスの種類、内容、その役割 ・ ケアマネジメントのしくみ、機関とその役割 ・ 業務内容、運営基準、契約等の理解 ・ 小規模、個別ケア、ユニットケア ・ 介護予防と地域包括支援センター ・ 日常生活圏域と小規模多機能サービス ・ 第三者評価、介護サービス情報の公開、苦情の受け付け ・ 利用者から見たサービス利用の流れと利用支援等の留意点 		7	大下 直樹
⑥ 自分の住む街の制度・サービス <ul style="list-style-type: none"> ・ サービス事業所、サービス提供体勢、保険料とサービス水準 ・ 都道府県、市区町村独自の施策・制度 		4	大下 直樹

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(3) 高齢者、障害者等の疾病、障害者に関する理解	時間数	30
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 介護職員として、各介護項目における医療的側面のアセスメントができる (疾病と症状、障害、感染症の内容を含むこと) 例: 移動介助を行う際のアセスメント項目、入浴介助のアセスメント項目 等 ○ アセスメントの結果に基づいて、ケアプラン・サービス計画を確認でき、個別の介護方法に展開できる ○ 異変に気づき、対応できる。(バイタルサインを測定し、適切な判断、対応ができる) <ul style="list-style-type: none"> (1) 「いつもと違う」状況を発見するための、日々の観察と「いつもの状況」を知る (2) バイタルサインを測定できる (3) 日々の観察と「いつもの状況」を把握し、いつもと違う状況を発見できる。さらに、異変の状態のアセスメントを行い、適切な判断及び応急対応、連絡ができる ○ 感染予防に配慮した介護が展開できる(うがい、手洗いのタイミング、方法等) 		
指導の視点			
<ul style="list-style-type: none"> ● 加齢・老化に伴う変化及び各種障害、主要疾患の概要について理解させる ● 介護場面で直面する頻度の高い症状、疾病、障害を医学的に理解させる 			
内容	時間数	講師氏名	
① 加齢と整理 <ul style="list-style-type: none"> ・ 加齢の生理学 ・ 高齢者の栄養と睡眠 	3	古川 明美	
② 高齢者に多い疾病の医学的理解 <ul style="list-style-type: none"> ・ 三大死因の疾病 ・ 高血圧と糖尿病 ・ 各疾患の解説(循環器系・眼科・皮膚科・泌尿器系・呼吸器・筋骨格系・精神・神経科) ・ 介護保険での特定疾病 	7	古川 明美 伊達 朋子	
③ 感染症の理解と予防 <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症の種類と特徴 ・ 高齢者に起こりやすい感染症(インフルエンザ、ノロウイルス、肺炎、結核、MRSA、レジオネラ菌、トキソプラズマ症、カンジダ症、疥癬、白癬等) ・ 予防と留意点(加熱、日光、アルコール、逆性石鹼、塩素等による消毒・滅菌、十分な手洗い・うがい、室内換気、清掃等による衛生面への気配り、抵抗力の増強等) ・ 感染症の媒介とならないための介護上の留意点 	7	古川 明美 伊達 朋子	
④ 疾病、障害と生活支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の概念 ・ 知的障害、ダウン症、自閉症、学習障害など発達障害等 ・ 身体障害(脳性麻痺、脊髄損傷と肢体不自由等) ・ 精神障害(統合失調症、気分障害、人格障害及び神経症等) ・ 視覚障害・言語・聴覚障害 ・ 内部障害(心機能障害、腎機能障害) 	7	古川 明美	
⑤ 訴えと症状の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康チェックとバイタルサイン ・ 呼吸器症状と食中毒等の疾病 ・ 消火器症状と食中毒等の疾病 ・ その他の訴え・症状と疾病(痛み、めまい、食欲不振、しびれ、口腔内違和感、浮腫、腫脹、脱力感) 	6	古川 明美	

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(4) 認知症の理解	時間数	30
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 認知症の利用者がもつ生活機能を積極的に見いだしてその機能が発揮できるよう支援し、利用者の尊厳を保持する ○ 認知症の医学的背景を理解した上で、介護の専門職として、認知症の利用者の行動、生活状況を的確に把握することができる ○ 認知症の障害や特徴をふまえ、認知症の利用者が構築している認知的世界を理解し、安定した状態で過ごせるように介護を提供できる ○ 認知症の障害や行動をふまえ、常に心身の状態の観察や行動を見守り、適切に対応することができる ○ 認知症の利用者に対して生活上の不適切な制限を行わないよう、対応・配慮ができる ○ 認知症利用者の家族の負担を理解し、適切に対応できる 		
指導の視点			
<ul style="list-style-type: none"> ● 認知症の病理や症状、治療について学ばせる ● 認知症の利用者の支援の視点、介護の原則について学ばせる ● 認知症の利用者への援助方法を学ばせる ● 認知症の利用者の家族の立場を理解させる ● 認知症を支える専門職の役割を学ばせる 			
内容	時間数	講師氏名	
① 認知症の医学的背景の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢相応の物忘れと疾患としての認知症の区別等 ・ 認知症の問題となる基本障害と行動 ・ 認知症を引き起こす原因疾病(脳血管性認知症、アルツハイマー病、ピック病、ヤコブ病など)、発生誘因 ・ 若年性認知症 ・ 認知症とまちがわれやすい症状 	8	吉井 美恵子	
② 認知症の心理・行動の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の心理・行動モデル ・ 症状と障害の考え方 ・ 問題とみなされがちな行動のとらえ方と対応 	7	吉井 美恵子 柳澤 珠美	
③ 認知症の利用者への支援・介護の考え方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護の原則と観察 (寄り添うケア、身体面・精神面・社会関係・服薬状況などを含む観察) ・ 健康管理、廃用性症候群予防 ・ 生活環境、社会行動、コミュニケーション(言語的・非言語的コミュニケーション等) ・ 音楽療法、回想法、動作法、パレードーション、レクリエーション、アクティビティ等 ・ 問題とみなされがちな行動と介護職員としてのとらえ方 (せん妄、妄想、作話、帰宅願望、徘徊、昼夜逆転、不潔行動、興奮、大声・奇声、異食、自傷・他害、収集癖、性的問題行動等) 	7	柳澤 珠美	
④ 認知症介護における医療・保健・福祉、関係機関、地域資源との連携および自立支援のための地域による支え合い	6	柳澤 珠美	
⑤ 家族へのケア <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の心理の共感的な理解 ・ 専門家としての関わり、対応の方法(疾病の理解、サービスの活用、家族のストレスケア、助言) 	2	柳澤 珠美	

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(6) 生活支援と家事援助技術	時間数	30
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 利用者の心身の状態や、ありのままの生活を理解し、自立支援や介護予防の観点から、介護課程に沿って家事援助を展開できる <li style="margin-left: 20px;">(1) 基本的な家事援助技術(調理、掃除、洗濯等)についての知識・技術を有し、自立支援の視点で家事援助を展開できる <li style="margin-left: 20px;">(2) 予防的な家事援助を展開できる ○ 当たり前の生活、なじみの関係、その人らしい生活を継続するために、どのような支援が必要なのかを考え、家事援助を展開できる 		
指導の視点			
<ul style="list-style-type: none"> ● 生活全体を支援する視点に基づき、生活環境の整備と家事援助技術を学ばせる ● 家事援助と介護予防、自立支援の関わりについて学ばせる 			
内容	時間数	講師氏名	
① 生活の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代生活の枠組み ・ 家事労働 	4	笠井 恵子	
② 「生活支援」の枠組みにおける家事援助(技術)の意義・役割	2	笠井 恵子	
③ 高齢者・障害者(児)に対する家事援助の機能と基本原則 <ul style="list-style-type: none"> ・ 意欲を引き出す働きかけ ・ 利用者に合わせて生活 ・ 信頼関係の構築 ・ 生活支援における「ニーズ」と「ディマンズ」 ・ 秘密保持、ノーマライゼーションの視点 ・ 介護労働保険制度に規定される訪問介護の範囲 ・ 社会資源・代替サービスの有効利用等 	8	笠井 恵子 津司 真理	
④ 食生活の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者、障害者(児)と栄養ケアマネジメント、食生活のあり方 (必要な栄養素とその働き、栄養所要量、栄養の偏りや過不足がもたらす生活習慣やADLの低下等) ・ 調理方法の基本的な考え方と調理技術 (基本的な調理法、調理器具の使い方、調理上の工夫、材料や調理の保存方法等) ・ 生活習慣病等に必要の食事の知識、特別食 ・ 食品衛生の基礎理解、食品衛生に関連した法規 	8	笠井 恵子 津司 真理	
⑤ 被服生活の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者・障害者(児)と住居の役割と機能 ・ 被服の管理と洗濯、清潔 ・ 取り扱い表示の種類と意味、繊維の種類とおもな長所、短所 	4	笠井 恵子 津司 真理	
⑥ 住生活の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者、障害者(児)と住居の役割と機能(生活行動と生活空間) ・ 快適な環境の維持と安全管理(音、光、換気・空調、清潔、防災等) ・ 室内整備と掃除、清潔な環境 ・ 混乱や失敗を招かない環境作り ・ 場所間違い等の防止 	4	笠井 恵子	

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(7) 医療及び看護を提供する者との連携	時間数	30
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 介護職員としての役割とその範囲を踏まえ、医療・看護との連携の必要性を理解し、医療ニーズを持つ利用者に対して、チームの一員として適切な連携をとりながら介護を展開できる ○ 医療ニーズを持つ利用者に対して、介護を行う上での留意事項や報告事項を理解し、適切な観察、報告及び記録ができる ○ 非医行為の範囲について理解し、緊急時に適切な対応と応急処置を実践できる ○ ターミナルケアについて、本人・家族への説明と理解を得るなど、チームの一員として対応することができる 		
指導の視点			
<ul style="list-style-type: none"> ● 医療・看護との連携の必要性とチームの一員としての介護職員の役割を理解させる ● 介護職員がふれる機会が多い医療機器や薬、リハビリテーション医療等に関する基礎知識を習得させる ● 医療ニーズを持つ利用者に対して、医療・看護との連携の下で行う介護技術を習得させる ● ターミナルケアへの対応について理解する 			
内容		時間数	講師氏名
① 医療・看護との連携の基礎的理解 ・ 医療、看護との連携の必要性の理解と方法 ・ 非医行為の範囲と対応の基礎		4	柳澤 珠美 高瀬 憲作
② 訪問看護の基礎的な理解 ・ 訪問看護制度、訪問看護の援助内容 ・ 在宅医療・在宅看護の進展		3	柳澤 珠美
③ 医療機器・医療用具・薬の基礎的理解 ・ 胃瘻、腸瘻、鼻腔栄養、中心静脈栄養、点滴 ・ 吸入、吸引 ・ 人口呼吸器、在宅酸素 ・ 浣腸、摘便 ・ 人工肛門、人工膀胱 ・ 薬(種類と服用方法、副作用とリスク、多剤併用での相互作用)		5	柳澤 珠美
④ 褥瘡予防に関する基礎的な理解 ・ 褥瘡と発生のメカニズム ・ 介護職が行う褥瘡予防、悪化の防止 ・ 医療職が行う褥瘡治療、処置		3	柳澤 珠美
⑤ リハビリテーション医療の基礎的理解 ・ リハビリテーションの定義・理念 ・ リハビリテーション医療の過程(急性期、回復期、維持期)とリハビリテーションマネジメント、脳卒中モデル、廃用症候群モデル ・ リハビリテーションチーム職種との連携		6	山田 航 長宗 由美
⑥ 緊急時の方法 ・ 緊急時における連絡、連携と介護職員の役割		5	高瀬 憲作 柳澤 雅美
⑦ ターミナルケアの対応 ・ ターミナルケアへの条件と介護職員の役割		4	笠井 恵子
修了評価		3	柳澤 雅美

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(8) 介護における社会福祉援助技術	時間数	30
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 利用者・家族のニーズや心情をくみ取り、その主体性を引き出すことができる ○ チームの一員として、社会資源と連携し、活用しながら利用者・家族に対して働きかけや関わりを持つことができる ○ 利用者・家族のニーズを把握し、社会資源に適切につなげるために、チームの中で提案をすることができる 		
指導の視点			
<ul style="list-style-type: none"> ● 介護において求められるソーシャルワークについて、理念を理解し実践的援助技術を習得させる ● 地域を含めた生活環境づくりの視点と方法を理解させる ● 困難事例等への対応において、チームケアの一員として、どのような役割を果たすべきか考え、連携の具体的方法を学ばせる 			
内容	時間数	講師氏名	
① 介護におけるソーシャルワークの基礎的理解 <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護におけるソーシャルワークの必要性 ・ ソーシャルワークの目的と内容 ・ ソーシャルワークの展開 (ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク) 	3	笠井 恵子	
② 介護における相談援助技術の習得 <ul style="list-style-type: none"> ・ 相談援助とバイスティックの7原則 ・ 高齢者、障害者(児)の家族の支援 ・ 高齢者、障害者(児)の家族の心理の理解 	6	笠井 恵子	
③ 地域に根ざした包括的なケアの必要性 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域を支える総合的な在宅ケアシステム(24時間・365日の地域生活の支援、利用者・家族のニーズと地域密着型サービス等各種サービス・機関の連携) ・ 各種社会資源、インフォーマルサービスの活用と開発 (市民活動、NPO、生協、農協等) ・ 事業者間連携 ・施設から在宅へのサービス展開 	3	笠井 恵子	
④ 地域生活支援の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の生活空間を地域に広げる視点 ・ 利用者のインフォーマルなつながりの重要性 ・ 近隣への依頼・連携の方法 ・ 地域環境を生かしたケアの実際(地域との交流、外出プログラム等) ・ 地域資源とのネットワークづくり 	6	笠井 恵子	
⑤ 困難事例に対する援助活動の展開 <ul style="list-style-type: none"> ・ サービス拒否、多問題ケース、家族とのトラブル ・不適正事例 	6	笠井 恵子	
⑥ 虐待防止、消費者被害、権利擁護への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護サービスを通じての問題発見 ・ 問題が疑われる場合の対応 ・ 相談機関等の連携 ・エンパワメント、アドボケート 	6	笠井 恵子	

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(9) 生活支援のためのアセスメントと計画	時間数	30
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ アセスメント、ケアプランの作成、各サービス計画の関係や流れを理解し、生活全体を支援するという観点から、どのような援助が必要かを考えることができる ○ 適切なアセスメント、モニタリング、カンファレンスを行うために、基本的な観察、記録、情報伝達を行うことができる 		
指導の視点			
<ul style="list-style-type: none"> ● 「ケアプラン」のアセスメント、作成方法を学び、生活全体をプランする「生活プラン」について学ばせる ● アセスメントからケアプラン作成の流れと居宅サービス計画(在宅の場合、個別サービス計画(訪問介護計画等))との関係を理解させる ● ケアプランに基づいたサービスの流れと、事業所と職種間の連携について理解させる 			
内容		時間数	講師氏名
① 生活プランの考え方		6	勝浦 君代
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活全体のアセスメント ・ 生活全体のプランニング支援 ・ 生活プランとケアプラン 			
② ケアプランとサービス計画の内容・機能		6	勝浦 君代
<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設ケアプランと居宅ケアプランの内容 ・ 居宅・施設サービス計画 ・ 各サービス計画(訪問介護計画、通所介護計画)とサービスの関係 			
③ ケアプランとサービス計画の作成手順		6	勝浦 君代
<ul style="list-style-type: none"> ・ アセスメントとニーズの把握 ・ 居宅ケアプランの作成 ・ ICFに基づくアセスメントや実践への展開 ・ 各サービス計画(訪問介護計画、通所介護計画)の作成 			
④ ケアプラン・サービス計画とサービス提供の実際		6	勝浦 君代
<ul style="list-style-type: none"> ・ ケアプラン・サービス計画に基づいたモニタリングと記録 ・ 介護職員のアセスメントと連携、ケアプラン・サービス計画の見直し 			
⑤ 地域生活支援のための地域環境のアセスメント技術と留意点		6	勝浦 君代
<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の希望を把握・推測するための視点・方法 ・ 利用者のインフォーマルなつながりの把握の視点・方法 ・ 外出支援のプログラム等における安全への配慮の視点・方法 ・ 地域生活支援の際の利用者・家族への説明・同意・契約 			

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(10) 介護職員の職業倫理と職務	時間数	30
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 介護職員の倫理や職務、基本的マナー等について理解し、専門的な職業人としての自覚を持って行動できる ○ 利用者の尊厳が損なわれた状態(虐待やそれに類する行為)を発見する視点を持ち、改善に向けた行動ができる ○ 介護職員の職務の特性を理解した上で、心身の自己管理を適切に行い、意欲を持って職務に取り組むことができる ○ 記録の機能と重要性を理解し、適切な記録を書くことができる ○ 打合せ、引継ぎ、会議の設定、進行ができ、適切な発言等ができる ○ 同職種間、異職種間のチームワークを適切にとることができる ○ 積極的に研修等を受講し、自己研鑽に努めることができる 		
指導の視点			
<ul style="list-style-type: none"> ● 職業人としての論理の重要性、自己管理の重要性を理解させる ● 事業別の職務内容、介護職の倫理や職務について理解させる 			
	内容	時間数	講師氏名
① 介護職員の職業倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 倫理と尊厳の理解 ・ 虐待等の発見と人権の擁護 ・ 守秘義務 ・ 専門的、総合的なサービスの提供と積極的連携 ・ 後継者の育成 ・ 個人情報保護と活用、情報開示 ・ 所属機関と専門職としての倫理 ・ 地域福祉の推進 ・ 利用者本位、自立支援、利用者の代弁 	4	笠井 恵子
② 生命倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生命と倫理 ・ ターミナルにおける倫理(死の考え方、尊厳死と倫理) ・ 医療の進歩と倫理 ・ 医療・看護の倫理、パターナリズム 	3	笠井 恵子
③ 基本的マナー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶、礼儀、依頼、助言、配慮ある断り方 ・ 利用者から金品を渡された場合の対応等 	3	笠井 恵子
④ 介護職員の職場の仕組みと職務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護業務の共通性と事業別の特性 ・ ケアマネージャー、サービス提供責任者等の役割とサービス実施のプロセス (要介護認定、サービス担当者会議、サービス計画、目標に沿ったサービスの実施、モニタリング) ・ 事業の特性に応じた業務の流れ(訪問介護、施設介護、グループホーム、通所介護等) ・ 同職種内のチームワークと他職種との連携 	3	笠井 恵子
⑤ サービス提供時の契約と留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者との契約 ・ 文書による確認 ・ 物品の保管 ・ 事故における事業者・労働者の責任 ・ 金銭管理 	3	笠井 恵子
⑥ 報告、会議、記録	<ul style="list-style-type: none"> ・ 打合せ、引き継ぎ、会議の持ち方、すすめ方と発言の仕方 ・ 記録の役割と書き方、活用法 	3	笠井 恵子
⑦ 介護事故等の予防と対策への組織的取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ セーフティマネジメント ・ ヒヤリ・ハットの事例の活用 ・ 感染症の予防と対策 ・ 身体拘束の禁止 	6	笠井 恵子
⑧ よいキャリアのための自己研鑽、心身の健康管理等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門職としての自覚と質の向上(OJT、Off-JT、自己啓発、資格取得) ・ 健康管理、ストレスマネジメント ・ 介護職員の労働の権利と制度 	5	笠井 恵子
	展開内容(最後に修了評価の時間を設けること)	時間数	講師氏名
	● 介護職員の職業倫理については、具体的な事例に基づき、問題点や対応策を考察できるよう展開すること		
	● 職務理解については、業務フロー等に基づいて、サービス実施プロセスや職務内容の全体像が理解できるよう展開すること		
	● 記録については、具体的な事例に基づき、記録のポイント、方法を学習すること		
	● 報告や会議については模擬カンファレンスなどを含め展開すること		
	● 介護職員のキャリアアップ及びキャリアの展望が持てるような研修や自己研鑽について、具体例を紹介する		

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(11) (A)事前演習	時間数	8
経験目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実習の目的・経験目標について説明を受け、自らの問題意識を整理する ○ 実習中の態度・心構えについて説明を受ける <ul style="list-style-type: none"> (1)挨拶服装などのマナー、実習態度 (2)報告・連絡・相談、守秘義務、個人情報の保護、健康管理 (3)職員との関係、利用者との関係 ○ 実習記録の書き方、留意点について、指導を受ける ○ 実習施設・事業所の概要、実習日程について説明を受ける 		
指導の視点			
<ul style="list-style-type: none"> ● 実習を円滑に実施するため、研修事業者において実習の目標、スケジュール、留意点等についてオリエンテーションを行い、実習の課題、問題意識を形成させる ● 演習等により、基本的な介護技術の修得の有無を確認し、事故防止の留意点を理解させる ● 実習記録の書き方を理解させる 			
内容			
(1) オリエンテーション、実施計画について <ul style="list-style-type: none"> ①施設・事業所の概要(目的・機能等)について説明と理解 ②実習目標の設定・計画・問題意識について ③基本的接遇・心構え <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、服装などのマナー ・実習態度 ・職員との関係 ・守秘義務・個人情報保護 ・健康管理 ④事故防止のための注意点 		柳澤 珠美	
(2) 実習記録について <ul style="list-style-type: none"> ①実習記録用紙について ②実習記録用紙の記入について 			

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(11) (B)施設・居住型実習	時間数	80
経験目標	<p>[説明を受ける、見学・閲覧する]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 施設の概要、特徴、職員体制、利用者の概要、1日のプログラムについて説明を受ける ○ 施設の各職種の職員からそれぞれの業務の内容、チームケアの取り組みや連携について説明を受ける ○ 申し送り、カンファレンスの場面を見学する ○ 介護記録、ケアプランを閲覧する ○ 基本的な介護技術について、介護方法や内容、利用者との接し方を見学する ○ PT、OT、ST等による機能訓練の場面、医療器具や福祉用具の使用方法を見学し、説明を受ける ○ 居室の環境、バリアフリーの状況を見学し、説明を受ける ○ ボランティアの活動状況や地域の関係機関等との連携についての説明を受ける <p>[経験する]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 利用者(認知症高齢者を含む)に自ら話かけ、コミュニケーションの機会を持つ ○ 介護補助業務(食事、入浴、排泄、環境整備等)を経験する ○ 利用者とともに、レクリエーション、グループ活動、行事、作業療法、外出等に参加する ○ 実習指導者の指導の下で、福祉用具(車いす、自助具等)を利用している利用者の介護を経験する ○ 利用者に対し、実習指導者の指導の下で、食事、口腔ケア、更衣、排泄、入浴、移動等の介護を経験する ○ 一人の利用者について、個性、嗜好、暮らしの様子、習慣、人間関係等について観察し、まとめる ○ 実習記録を作成する 		
指導の視点			
<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者の個性や人間関係を理解するための着眼点を理解させる ● 介護目標を踏まえて、自立に向けた介護の考え方やプロセスを理解させる 			
内容			
初日	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・施設内見学 ・実習担当職員の確認 ・利用者さんへの紹介 ・実習をおこなうフロアの利用者さんの状況などの把握 ・申し送りに参加する(どんな情報を誰がどのように伝えているか見学する) 		
初日 5日	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の1日の流れを把握する ・施設の機能や職員の一般的な役割について学ぶ ・補助業務の体験(食事の準備、おむつ交換、排泄介助などの用意、環境整備など)を職員の指示を受けて行う ・利用者の方とのコミュニケーションを通じ、人間的な関わり方を深め、利用者の方のニーズがどんなところにあるかを知る ・軽度者の食事・口腔ケア・衣類の着脱・排泄・移動・移乗などの介護を見学後、職員の指導の下で体験する ・福祉用具や医療器具等の取扱法や使用場面の見学 ・レクリエーション・グループ活動・行事・作業療法等に利用者とともに参加し、利用者の生きがい作りについて学ぶ ・実習記録の作成 <p style="text-align: center;">※初日～5日目の実習内容を深めるとともに、下記を加える</p>		
6日 10日	<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスを見学 ・重度者への食事・口腔ケア・衣類の着脱・排泄・移動・移乗・体位変換を見学後、職員の指導の下で体験する ・施設の機能や職員の役割の理解を深める ・認知症の利用者への介護、援助を体験する ・ひとりの利用者について、個性、嗜好、暮らしの様子、習慣、人間関係等について観察し、利用者を全人間的に理解し、その人らしさについてまとめる(介護課程の展開について学ぶ) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・各職種からの聞き取りを通じ、他職種の役割について理解し、連携がどのように行われているかを知る ・実習反省会・実習記録の完成 		

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(11) (C)通所、小規模多機能型実習	時間数	24
経験目標	<p>[説明を受ける、見学・閲覧する]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 施設の概要、特徴、職員体制、利用者の概要、1日のプログラムについて説明を受ける ○ 施設の各職種の職員からそれぞれの業務の内容、チームケアの取り組みや連携について説明を受ける ○ 居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、医療機関等との連携について説明を受ける ○ カンファレンスを見学する ○ 介護記録、ケアプラン、通所介護計画等を閲覧する ○ 基本的な介護技術について、介護方法や内容、利用者との接し方等を見学する ○ 介護予防プログラムを見学する ○ 福祉用具の使用方法について説明を受ける ○ 環境整備の方法について説明を受ける <p>[経験する]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 利用者の送迎時の介助補助、健康状態の観察、施設持参品の管理補助を経験する ○ 利用者に自ら話かけ、コミュニケーションの機会を持つ ○ 利用者とともに、レクリエーション、グループ活動、行事、作業療法、外出等に参加する ○ 利用者に対し、実習指導者の下で、食事、口腔ケア、更衣、排泄、入浴、移動等の介護を経験する ○ 実習記録を作成する 		
指導の視点			
<ul style="list-style-type: none"> ● 通所系サービスの機能・内容及び他の居宅サービスとの連携を理解させる ● 利用者の個性や人間関係を理解するための着眼点を理解させる ● 介護目標を踏まえて、自立に向けた介護の考え方やプロセスを理解させる 			
内容			
初日 3日	<p>・オリエンテーション・施設内見学・職員の紹介・通ってこられる利用者さんの状態等の把握(通所人数等も)</p> <p>・朝のミーティングに参加する (どんな情報を誰がどのように伝えているか見学する)</p> <p>・通所施設(デイサービス、デイケア)に1日のプログラムを把握する</p> <p>・通所施設の機能や職員の役割について学ぶ</p> <p>・送迎車乗降介助の補助(工夫されていることの発見)</p> <p>・到着時受け入れの健康状況観察補助及び介助</p> <p>・私物持参品の管理補助・個別生活支援</p> <p>・補助業務の体験(食事の準備・排泄介助等の用意・環境整備等を職員の指示を受けて行う)</p> <p>・利用者の方とのコミュニケーションを通じ、人間的な関わり方を深め、利用者のニーズがどんなところにあるかを知る</p> <p>・軽度者の食事・口腔ケア・衣類の着脱・排泄・移動・乗降などの介護を見学後、職員の指導の下で体験する</p> <p>・通所介護施設での福祉用具の取扱・使用法や自助具の活用などを学ぶ</p> <p>・レクリエーション・グループ活動・行事・作業療法等に利用者とともに参加し、利用者の生きがい作りについて学ぶ</p> <p>・認知症の利用者への介護、援助を経験する</p> <p>・各職種間(相談員・介護職員・ドライバー・看護師等)の連携について、どんな工夫がなされているかを知る</p> <p>(例えば医療的な処置は看護師、介護面からは介護職など)</p> <p>・帰宅時の送りの健康状況観察補助及び介護。家族との心理的支援を含めた関わり方等</p>		
	<p>・通所介護計画・記録等の閲覧。カンファレンス見学</p> <p>・実習反省会・実習記録の完成</p>		

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(11) (D)訪問介護実習	時間数	16
経験目標	<p>〔説明を受ける、見学・閲覧する〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事業所の概要、特徴、職員体制、利用者について説明を受ける ○ 事業所内での業務(チームケアのシステム、業務管理の仕組み)について説明を受ける ○ 居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、医療機関等との連携について説明を受ける ○ カンファレンスを見学する ○ 訪問記録、訪問介護計画等を閲覧する ○ サービス提供責任者や担当ヘルパーに同行し、介護や利用者の生活環境に応じた家事援助に応じた家事援助の内容、利用者への接し方を学ぶ <p>〔経験する〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 利用者、家族とのコミュニケーションの機会を持つ ○ 実習指導者の指導の下で、利用者に対する身体介護、家事援助を経験する ○ 実習記録を作成する 		
指導の視点			
<ul style="list-style-type: none"> ● 訪問介護サービスの機能・内容及び他の居宅サービス等との連携を理解させる ● 関係機関との連携や社会資源の活用状況について理解させる ● 利用者を取り巻く家族関係を理解し、配慮することの重要性を理解させる ● 在宅の生活、利用者の日常生活の多様性、および介護の工夫の現状と自立に向けた支援の考え方について理解させる 			
内容			
初日 1 2日	<p>・オリエンテーション・実習担当職員の紹介</p> <p>・訪問する利用者さんの状態等の把握、および、利用者宅までの地図などを使って行き方の説明(可能であれば訪問介護計画の閲覧)</p> <p>・移動時・訪問時の留意点等の説明</p> <p>・利用者宅にて、利用者の紹介</p> <p>・同行の訪問介護職員と利用者の信頼関係にのっとったコミュニケーションの方法を観察し、ニーズの引き出し方等について学ぶ</p> <p>・訪問介護員による生活援助(家事援助)の実際を体験する</p> <p>・訪問介護員による身体介護の実際を体験する</p> <p>・利用者の方とのコミュニケーションを通じ、人間的な関わり方を深め、利用者のニーズがどんなところにあるかを知る</p> <p>・家族(介護者)との心理的支援を含めた関わり方を学ぶ</p> <p>・担当の訪問介護職員とサービス提供責任者、介護支援専門員や訪問看護師等の他職種との連携について、どんな工夫がなされているかチームケアの特色を知る</p> <p>・可能であればサービス提供責任者の業務の流れや、やりがい等について、サービス責任者にインタビュー等を行う</p> <p>・訪問記録(訪問日誌)等の記録等の注意点について学ぶ</p>		
	<p>・カンファレンス見学</p> <p>・実習反省会・実習記録の完成</p>		

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(11) (E)地域の社会資源実習	時間数	4
経験目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の社会資源(介護保険事業以外のNPO、ボランティアグループ、当事者団体、社会福祉協議会等)を訪問し、活動の見学や活動者に対するインタビューを行い、地域の中で暮らしを豊かにしていくための活動、サポートのあり方を考察する 		
指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の社会資源として現実にどんなものが存在しているのかを理解させる ● 地域の社会資源など、必要な情報をどんな所で得ることが出来るのか理解させる ● 地域の社会資源や、サポートシステムがどう構築されているか理解させる 		
内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習先 ボランティアグループ 友の会 ひまわり 2. 内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアグループ 友の会 ひまわりの概要説明など地域の社会資源について知る ・訪問は5名程度のグループで担当の実習先を決定し、訪問する ・実習先にて、地域の高齢者をはじめとする地域住民の日常の暮らしを豊かにしていくことに貢献している団体の活動状況の説明を受けたり、活動を見学 ・実習先にて、活動している職員にインタビューを行ったり、資料を見せていただいたりして、地域に向けて介護保険以外のサービスがどのように行われているかグループで協力しあい、まとめる 3. 事後報告 <ul style="list-style-type: none"> ・グループで調べた地域の社会資源について、グループ毎に役割を決定し発表する ・実習先毎に異なる点や類似点など、情報を共有する ・地域で活動している団体関係者にも、可能な限り参加を得て、助言指導を受け地域資源についての理解を深める 			

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(11) (F)事後演習	時間数	8
経験目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実習中に記録した経験の内容、気づき、反省点、自己の介護観等をまとめ、実習目標及び実習計画に照らして達成状況を確認する ○ 実習終了後、以下の点について、事故を振り返り、お互いに発表、話し合い、検討を行う <ul style="list-style-type: none"> (1)実習全般を通して率直な印象や感想、気づいたこと、学んだことについて (2)基本的な技術に基づいて介護できたか、また介護の根拠について (3)自己の介護技術において、自分としてうまくいった点及びその背景、理由について (4)職員との関わりや利用者との関わりにおいて、自分としてうまくいった点、いかなかった点、及びその背景理由について (5)疑問な点や不安な点及び今後それらに対して介護職員としてどのように考え対処すべきかについて (6)介護職員としての今後のあり方(目標・課題)について ○ 介護課程の観点から、介護職員の職務や、記録の書き方について振り返って考察する ○ 利用者の生活やニーズを出発点に、介護職員の業務、役割及びフォーマル、インフォーマルな社会資源の意義について振り返って考察する 		
指導の視点			
<ul style="list-style-type: none"> ● 実習の経験、事故の介護観等をまとめ、他の受講者の経験と比較、相対化し、学びの共有化、意味づけを行う ● 介護の現場における理想と現実の違いについて理解、認識させる ● 介護行為の根拠となっている知識や基本的な介護技術を再認識させる 			
内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・実習計画、実習目標及び実習記録をもとに自己の実習を振り返り、気づいた点、反省点、介護観等について発表する ・実習レポートとしてまとめる ・グループワーク等により、実習レポートの内容について他の受講者と話し合い、検討を行う ・反省とまとめ 			
総合評価テスト		3	

シラバス(介護職員基礎研修)

事業者名 (社)徳島県労働者福祉協議会 課程編成責任者 山田 薫

研修区分 標準型(500時間)

科目名	(1) 生活支援の理念と介護における尊厳の理解	時間数	30時間
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 尊厳を支えるための専門職としての意識を持った行動がとれる ○ 利用者一人ひとりがその人らしい生活が継続できるよう、尊厳を支える介護を提供することができる ○ 利用者の生活意欲を引き出し、自立支援や介護予防の視点で介護を提供することができる ○ 学習した生活支援を目標に、創意工夫のある取り組みを行うことができる ○ 中身こなしの権利と義務をもち、社会生活を送る工作こなし利用者ごころん、週明けに心、又振りかへるこなし 		
指導の視点			
<ul style="list-style-type: none"> ● 人生観や人間像の理解に基づいた尊厳を支える介護・福祉について理解させる ● 介護・福祉サービスを提供するに当たっての基本的視点の形成を促す 			
	内容	時間数	通学
	講師氏名		
① 人間理解と尊厳	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間理解の視点、豊かな人間観(その人らしさ)、多様な価値観 ・ 古い、尊厳、死生観、性について 	3	3
② 生活の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活の定義 ・ 生活支援の考え方 	3	3
③ 福祉の支援の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの福祉の考え方の流れ ・ ノーマライゼーション、QOLについて ・ 家族介護から社会介護へ ・ エンパワーメント、共生について 	6	6
④ 介護の基本的な視点と意義	<ul style="list-style-type: none"> ・ 尊厳を支えるケア ・ 介護の定義 ・ 健康かつ主体的・能動的な生活に向けた支援 ・ ICFの視点に基づく援助 ・ 介護の専門性とチームケア 	6	6
⑤ 地域生活支援と保健・医療・福祉サービス及びインフォーマルな活動等とのトータルなネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての人を対象とする地域生活支援 ・ 地域アセスメント ・ 資源調整と啓発 ・ フォーマルサービスとインフォーマル活動等トータルなネットワーク 	6	6
⑥ 利用者の権利と尊厳	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の権利擁護(アドボカシー) ・ 虐待の防止 ・ 身体拘束の禁止 	5	5
修了評価		1	1
	展開内容(最後に修了評価の時間を設けること)	時間数	通学
	講師氏名		
●	障害があっても地域の中で望ましい暮らしを続けるために、尊厳を支えるケアや生活支援のあり方・方法について、自分自身の生活に照らして考察できるように展開すること		
●	市民として社会生活を送る高齢者や障害者等へのインタビューなどを通して、それぞれが歴史を重ね、さまざまな社会関係をもち、主体的に暮らす市民であることが理解できるように展開すること		
●	介護職員へのインタビューなどを通して介護の意義や専門性、働き甲斐などを考察できるように展開すること		
●	虐待、身体拘束が起きてしまう背景、権利擁護のあり方などについて、事例をもとに考察できるように展開すること		

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(2) 高齢者、障害者等が活用する制度及びサービスの理解	時間数	30時間	
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ サービスの種類、相談窓口、サービス利用の流れがわかり、利用者に正確に情報提供、助言等が行える ○ 法・制度の理解とサービスシステムの一翼を担う視点をもって業務が行える ○ 利用者の生活を支える適正なサービスのあり方について、制度の理念や主旨に沿って考えることができ、利用者や家族の理解を得ることができる 			
指導の視点				
<ul style="list-style-type: none"> ● 介護保険法、障害者自立支援法を中心とした高齢者、障害者の医療・保健・福祉制度及びサービスについて理解させる(「制度観」を醸成する。) ● 各サービスの役割と業務について理解し、利用者の立場に沿ってサービス利用の流れを理解させる ● 各地域の制度、サービスの現状・特徴について理解させる 				
内容		時間数	通学	講師氏名
① 高齢者保険福祉制度と施策 ・ 高齢者保健福祉の背景と動向 ・ 介護保険制度の概要 ・ その他高齢者保健福祉施設		6	6	大下 直樹
② 障害者福祉制度と施策 ・ 障害者福祉の背景と動向 ・ 障害者保健福祉制度の概要		6	6	大下 直樹
③ その他の制度・施策 ・ 医療制度、年金制度、生活保護制度、児童福祉 ・ 住居と居住施策、地域福祉施策 ・ 成年後見、権利擁護、虐待防止などの制度・施策		5	5	大下 直樹
④ 社会保障制度改革の背景 ・ 人口の動向 ・ 負担と受給のバランス、世代間公平		1	1	大下 直樹
⑤ 介護サービスの現状、動向、利用支援等 ・ 各サービスの種類、内容、その役割 ・ ケアマネジメントのしくみ、機関とその役割 ・ 業務内容、運営基準、契約等の理解 ・ 小規模、個別ケア、ユニットケア ・ 介護予防と地域包括支援センター ・ 日常生活圏域と小規模多機能サービス ・ 第三者評価、介護サービス情報の公開、苦情の受け付け ・ 利用者から見たサービス利用の流れと利用支援等の留意点		6	6	大下 直樹
⑥ 自分の住む街の制度・サービス ・ サービス事業所、サービス提供体勢、保険料とサービス水準 ・ 都道府県、市区町村独自の施策・制度		5	5	大下 直樹
修了評価		1	1	
展開内容(最後に修了評価の時間を設けること)		時間数	通学	講師氏名
● 生活者の立場から、どのようなサービスがあり、利用できるのかを理解させた上で、専門職として利用者に対しどのような支援を行うべきかを考察できるよう展開すること				
● 公費を財源にしたサービスの意義とともに、その限界についても利用者との葛藤場面などの事例を素材に検討し、専門職としての役割や対応のあり方について考察できるよう展開すること(ボランティア等と公的サービスの組み合わせの視点も形成する)				
● 自分の住む地域のサービス、保険料などを具体的に調べることなどにより、生活者・利用者としての立場、専門職としての立場から制度を多面的にとらえられるように展開すること				

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(3) 高齢者、障害者等の疾病、障害者に関する理解	時間数	30時間
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 介護職員として、各介護項目における医療的側面のアセスメントができる (疾病と症状、障害、感染症の内容を含むこと) 例: 移動介助を行う際のアセスメント項目、入浴介助のアセスメント項目 等 ○ アセスメントの結果に基づいて、ケアプラン・サービス計画を確認でき、個別の介護方法に展開できる ○ 異変に気づき、対応できる。(バイタルサインを測定し、適切な判断、対応ができる) (1) 「いつもと違う」状況を発見するための、日々の観察と「いつもの状況」を知る (2) バイタルサインを測定できる (3) 日々の観察と「いつもの状況」を把握し、いつもと違う状況を発見できる。さらに、異変の状態のアセスメントを行い、適切な判断及び応急対応、連絡ができる ○ 感染予防に配慮した介護が展開できる(うがい、手洗いのタイミング、方法等) 		
指導の視点			
<ul style="list-style-type: none"> ● 加齢・老化に伴う変化及び各種障害、主要疾患の概要について理解させる ● 介護場面で直面する頻度の高い症状、疾病、障害を医学的に理解させる 			
	内容	時間数	通学
① 加齢と整理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 加齢の生理学 ・ 高齢者の栄養と睡眠 	6	6
② 高齢者に多い疾病の医学的理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三大死因の疾病 ・ 各疾患の解説(循環器系・眼科・皮膚科・泌尿器系・呼吸器・筋骨格系・精神・神経科) ・ 介護保険での特定疾病 ・ 高血圧と糖尿病 	6	6
③ 感染症の理解と予防	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症の種類と特徴 ・ 高齢者に起こりやすい感染症(インフルエンザ、ノロウイルス、肺炎、結核、MRSA、レジオネラ菌、トキソプラズマ症、カンジダ症、疥癬、白癬等) ・ 予防と留意点(加熱、日光、アルコール、逆性石鹼、塩素等による消毒・滅菌、十分な手洗い・うがい、室内換気、清掃等による衛生面への気配り、抵抗力の増強等) ・ 感染症の媒介とならないための介護上の留意点 	6	6
④ 疾病、障害と生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の概念 ・ 知的障害、ダウン症、自閉症、学習障害など発達障害等 ・ 身体障害(脳性麻痺、脊髄損傷と肢体不自由等) ・ 精神障害(統合失調症、気分障害、人格障害及び神経症等) ・ 視覚障害・言語・聴覚障害 ・ 内部障害(心機能障害、腎機能障害) 	6	6
⑤ 訴えと症状の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康チェックとバイタルサイン ・ 呼吸器症状と食中毒等の疾病 ・ 消火器症状と食中毒等の疾病 ・ その他の訴え・症状と疾病(痛み、めまい、食欲不振、しびれ、口腔内違和感、浮腫、腫脹、脱力感) 	5	5
修了評価		1	1
	展開内容(最後に修了評価の時間を設けること)	時間数	通学
	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者や障害者の疑似体験プログラム、視聴覚教材の活用などによって、具体的なイメージをもって理解できるよう展開すること 		
	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な介護や生活支援の場面と関連付けながら、障害や疾病などの医学的な根拠や留意点を確認することの大切さが理解できるよう展開すること 		

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(4) 認知症の理解	時間数	30時間	
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 認知症の利用者がもつ生活機能を積極的に見い出してその機能が発揮できるよう支援し、利用者の尊厳を保持する ○ 認知症の医学的背景を理解した上で、介護の専門職として、認知症の利用者の行動、生活状況を的確に把握することができる ○ 認知症の障害や特徴をふまえ、認知症の利用者が構築している認知的世界を理解し、安定した状態で過ごせるように介護を提供できる ○ 認知症の障害や行動をふまえ、常に心身の状態の観察や行動を見守り、適切に対応することができる ○ 認知症の利用者に対して生活上の不適切な制限を行わないよう、対応・配慮ができる ○ 認知症利用者の家族の負担を理解し、適切に対応できる 			
指導の視点				
<ul style="list-style-type: none"> ● 認知症の病理や症状、治療について学ばせる ● 認知症の利用者の支援の視点、介護の原則について学ばせる ● 認知症の利用者への援助方法を学ばせる ● 認知症の利用者の家族の立場を理解させる ● 認知症を支える専門職の役割を学ばせる 				
内容		時間数	通学	講師氏名
① 認知症の医学的背景の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢相応の物忘れと疾患としての認知症の区別等 ・ 認知症の問題となる基本障害と行動 ・ 認知症を引き起こす原因疾病(脳血管性認知症、アルツハイマー病、ピック病、ヤコブ病など)、発生誘因 ・ 若年性認知症 ・ 認知症とまちがわれやすい症状 		6	6	柳澤 珠美 正岡 恵三子
② 認知症の心理・行動の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の心理・行動モデル ・ 症状と障害の考え方 ・ 問題とみなされがちな行動のとらえ方と対応 		6	6	柳澤 珠美 正岡 恵三子
③ 認知症の利用者への支援・介護の考え方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護の原則と観察 (寄り添うケア、身体面・精神面・社会関係・服薬状況などを含む観察) ・ 健康管理、廃用性症候群予防 ・ 生活環境、社会行動、コミュニケーション(言語的・非言語的コミュニケーション等) ・ 音楽療法、回想法、動作法、バリデーション、レクリエーション、アクティビティ等 ・ 問題とみなされがちな行動と介護職員としてのとらえ方 (せん妄、妄想、作話、帰宅願望、徘徊、昼夜逆転、不潔行動、興奮、大声・奇声、異食、自傷・他害、収集癖、性的問題行動等) 		6	6	柳澤 珠美 正岡 恵三子
④ 認知症介護における医療・保健・福祉、関係機関、地域資源との連携および自立支援のための地域による支え合い		6	6	柳澤 珠美 正岡 恵三子
⑤ 家族へのケア <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の心理の共感的な理解 ・ 専門家としての関わり、対応の方法(疾病の理解、サービスの活用、家族のストレスケア、助言) 		5	5	柳澤 珠美 正岡 恵三子
修了評価		1	1	
展開内容(最後に修了評価の時間を設けること)		時間数	通学	講師氏名
<ul style="list-style-type: none"> ● 視聴覚教材の活用、グループワークなどによって、認知症による生活上の障害を具体的なイメージをもって理解させるとともに、専門職としての支援の着眼点・かかわりのあり方について具体的に考察できるよう展開すること 				
<ul style="list-style-type: none"> ● コミュニケーションや回想法の実技演習、ケアプランの事例研究や模擬立案などによって、具体的な支援のあり方を考察できるよう展開すること 				

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(5) 介護におけるコミュニケーションと技術	時間数	90時間	
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 利用者の心身の状態やありのままの生活を理解し、介護課程に沿って尊厳を支える介護を展開できる <ul style="list-style-type: none"> (1) 基本的な介護技術について、理論を踏まえた上で、それを応用して、自立支援の視点で介護を展開できる (2) 心身機能の低下に沿った介護方法の事例や理論を踏まえ、自立支援の視点で介護を展開できる (3) 介護予防の考え方と方法を理解し、利用者の状況に応じて実践できる (4) 適切なコミュニケーションに基づく利用者との協働によって、介護を展開できる ○ 福祉用具、住宅改修等についての知識を持ち、利用者の生活を支えるという視点から、チームの中で助言や提案ができる 			
指導の視点				
<ul style="list-style-type: none"> ● 介護の考え方、視点を理解させる ● 利用者とのコミュニケーション、心のケアのための基本的態度、技術を習得させる ● 利用者を尊重し、個人の尊厳を支えるケアの実際を学ばせる ● 利用者の自立支援・地域生活支援の観点から、心身機能低下のプロセスに沿って、介護の意味と基本的介護技術を習得させる ● 介護予防の考え方と方法を習得させる ● 福祉用具、住宅改修の意義、活用法について理解させる 				
内容		時間数	通学	講師氏名
① 介護の考え方・視点 ・介護課程の理解 ・ICFの考え方の理解		6	6	柳澤 珠美
② 介護におけるコミュニケーションと信頼関係形成 ・他者の理解と共感・受容及び傾聴的態度 ・言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション ・言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション ・アセスメントにつながるコミュニケーションのとり方 ・専門職としての効果的なアドバイス		6	6	柳澤 珠美
③ 高齢者・障害者(児)の理解と心のケア ・高齢者・障害者(児)の心理の理解 ・日常生活における心的安定と活性化の視点と技術 ・「寄り添う」ことの意義と実際 ・利用者のペースや居場所の尊重など自立支援への配慮 ・治療的かわりの可能性 ・障害の受容の理解・ターミナル、死の受容の基礎		6	6	柳澤 珠美
④ 基本的な介護技術の修得 ・歩行、移動 ・食事の介護及び口腔ケア、排泄の介護 ・入浴、衣類の着脱、整容、清潔の介護(褥瘡の防止を含む)		57	57	柳澤 珠美 津司 真理 清水 秀司 正岡 恵三子
⑤ 介護予防の考え方と方法 ・生活の中の介護予防(心理的安定と活性化、身体機能の維持・向上等) ・介護予防プログラム(閉じこもり予防、筋力向上、栄養改善、口腔ケア)等の基礎		6	6	津司 真理
⑥ 福祉用具の活用と住宅改修による自立支援 ・生活環境のとりえ方、住宅の生活と福祉用具、住宅改修の意義 ・福祉用具、住宅改修の基礎		6	6	清水 秀司
修了評価		3	3	
展開内容(最後に修了評価の時間を設けること)		時間数	通学	講師氏名
● 介護者と同じ生活の状態を体験したり、介護を受けるなど、利用者の気持ちを理解できるように展開すること				
● コミュニケーションについては視聴覚教材の活用、ロールプレイなどを交えて展開すること。苦情等の事例の検討を交えて展開し、行為や言葉の裏側にある利用者の心情やニーズなどを踏まえた対応策を検討させること				
● 基本的な介護技術については、実技演習を行うとともに、各介護の基本やなぜその介護を行うのかをチェックリスト・ワークシート等を利用して振り返り、技術と知識を一体的に確認すること				
● 基本的な介護技術については、自立を支援する観点から、介護度の軽いほうから徐々に重度化していく順に支援・介助のあり方を学ばせること(単に最重度の全介助を要する利用者への顔後技術だけを学ばせることがないよう留意する)				

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(6) 生活支援と家事援助技術	時間数	30時間	
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 利用者の心身の状態や、ありのままの生活を理解し、自立支援や介護予防の観点から、介護課程に沿って家事援助を展開できる (1) 基本的な家事援助技術(調理、掃除、洗濯等)についての知識・技術を有し、自立支援の視点で家事援助を展開できる (2) 予防的な家事援助を展開できる ○ 当たり前の生活、なじみの関係、その人らしい生活を継続するために、どのような支援が必要なのかを考え、家事援助を展開できる 			
指導の視点				
<ul style="list-style-type: none"> ● 生活全体を支援する視点に基づき、生活環境の整備と家事援助技術を学ばせる ● 家事援助と介護予防、自立支援の関わりについて学ばせる 				
	内容	時間数	通学	講師氏名
① 生活の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代生活の枠組み ・ 家事労働 	3	3	笠井 恵子
② 「生活支援」の枠組みにおける家事援助(技術)の意義・役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活形成プロセスと生活経営 	3	3	笠井 恵子
③ 高齢者・障害者(児)に対する家事援助の機能と基本原則	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意欲を引き出す働きかけ ・ 利用者に合わせて生活 ・ 信頼関係の構築 ・ 生活支援における「ニーズ」と「ディマンズ」 ・ 秘密保持、ノーマライゼーションの視点 ・ 介護労働保険制度に規定される訪問介護の範囲 ・ 社会資源・代替サービスの有効利用等 	6	6	笠井 恵子
④ 食生活の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者、障害者(児)と栄養ケアマネジメント、食生活のあり方 (必要な栄養素とその働き、栄養所要量、栄養の偏りや過不足がもたらす生活習慣やADLの低下等) ・ 調理方法の基本的な考え方と調理技術 (基本的な調理法、調理器具の使い方、調理上の工夫、材料や調理の保存方法等) ・ 生活習慣病等に必要の食事の知識、特別食 ・ 食品衛生の基礎理解、食品衛生に関連した法規 	9	9	笠井 恵子
⑤ 被服生活の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者・障害者(児)と住居の役割と機能 ・ 被服の管理と洗濯、清潔 ・ 取り扱い表示の種類と意味、繊維の種類とおもな長所、短所 	3	3	笠井 恵子
⑥ 住生活の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者、障害者(児)と住居の役割と機能(生活行動と生活空間) ・ 快適な環境の維持と安全管理(音、光、換気・空調、清潔、防災等) ・ 室内整備と掃除、清潔な環境 ・ 混乱や失敗を招かない環境作り ・ 場所間違い等の防止 ・ 住居の中での事故と対応 	5	5	笠井 恵子
修了評価		1	1	
	展開内容(最後に修了評価の時間を設けること)	時間数	通学	講師氏名
	<ul style="list-style-type: none"> ● 事例やビデオ教材などを用いて具体的な利用者像や生活環境を想定し、家事援助の視点や支援内容を具体的に検討させること ● 調理、被服、環境整備については実技演習を行うこと 			

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(7) 医療及び看護を提供する者との連携	時間数	30時間
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 介護職員としての役割とその範囲を踏まえ、医療・看護との連携の必要性を理解し、医療ニーズを持つ利用者に対して、チームの一員として適切な連携をとりながら介護を展開できる ○ 医療ニーズを持つ利用者に対して、介護を行う上での留意事項や報告事項を理解し、適切な観察、報告及び記録ができる ○ 非医行為の範囲について理解し、緊急時に適切な対応と応急処置を実践できる ○ ターミナルケアについて、本人・家族への説明と了解を得るなど、チームの一員として対応することができる 		
指導の視点			
<ul style="list-style-type: none"> ● 医療・看護との連携の必要性とチームの一員としての介護職員の役割を理解させる ● 介護職員がふれる機会の多い医療機器や薬、リハビリテーション医療等に関する基礎知識を習得させる ● 医療ニーズを持つ利用者に対して、医療・看護との連携の下で行う介護技術を習得させる ● ターミナルケアへの対応について理解する 			
	内容	時間数	通学
	講師氏名		
① 医療・看護との連携の基礎的理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療、看護との連携の必要性の理解と方法 ・ 非医行為の範囲と対応の基礎 	3	3
	柳澤 珠美		
② 訪問看護の基礎的な理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問看護制度、訪問看護の援助内容 ・ 在宅医療・在宅看護の進展 	3	3
	坂東 光代		
③ 医療機器・医療用具・薬の基礎的理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 胃瘻、腸瘻、鼻腔栄養、中心静脈栄養、点滴 ・ 吸入、吸引 ・ 人口呼吸器、在宅酸素 ・ 浣腸、摘便 ・ 薬(種類と服用方法、副作用とリスク、多剤併用での相互作用) 	6	6
	坂東 光代		
④ 褥瘡予防に関する基礎的な理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 褥瘡と発生のメカニズム ・ 介護職が行う褥瘡予防、悪化の防止 ・ 医療職が行う褥瘡治療、処置 	3	3
	津司 真理		
⑤ リハビリテーション医療の基礎的理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ リハビリテーションの定義・理念 ・ リハビリテーション医療の過程(急性期、回復期、維持期)とリハビリテーションマネジメント、脳卒中モデル、廃用症候群モデル ・ リハビリテーションチーム職種との連携 	6	6
	山田 航 津司 真理		
⑥ 緊急時の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急時における連絡、連携と介護職員の役割 	5	5
	柳澤 珠美		
⑦ ターミナルケアの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ ターミナルケアへの条件と介護職員の役割 	3	3
	柳澤 珠美		
終了評価		1	1
	展開内容(最後に修了評価の時間を設けること)	時間数	通学
	講師氏名		
	<ul style="list-style-type: none"> ● 医療・看護との連携については、事例から実際の対応方法や留意点、介護職員としての役割とその範囲(提案や調整等を含む)等について考察すること ● 視聴覚教材の活用、在宅や介護施設で用いられる頻度の高い機器や用具の活用によって、具体的なイメージをもって理解できるよう展開すること ● 主な応急処置を実技で模擬経験すること 		

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(8) 介護における社会福祉援助技術	時間数	30時間	
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 利用者・家族のニーズや心情をくみ取り、その主体性を引き出すことができる ○ チームの一員として、社会資源と連携し、活用しながら利用者・家族に対して働きかけや関わりを持つことができる ○ 利用者・家族のニーズを把握し、社会資源に適切につなげるために、チームの中で提案をすることができる 			
指導の視点				
<ul style="list-style-type: none"> ● 介護において求められるソーシャルワークについて、理念を理解し実践的援助技術を習得させる ● 地域を含めた生活環境づくりの視点と方法を理解させる ● 困難事例等への対応において、チームケアの一員として、どのような役割を果たすべきか考え、連携の具体的方法を学ばせる 				
内容		時間数	通学	講師氏名
① 介護におけるソーシャルワークの基礎的理解		3	3	笠井 恵子
<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護におけるソーシャルワークの必要性 ・ ソーシャルワークの目的と内容 ・ ソーシャルワークの展開 (ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク) 				
② 介護における相談援助技術の習得		6	6	笠井 恵子
<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談援助とバイスティックの7原則 ・ 高齢者、障害者(児)の家族の支援 ・ 高齢者、障害者(児)の家族の心理の理解 				
③ 地域に根ざした包括的なケアの必要性		3	3	笠井 恵子
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域を支える総合的な在宅ケアシステム(24時間・365日の地域生活の支援、利用者・家族のニーズと地域密着型サービス等各種サービス・機関の連携) ・ 各種社会資源、インフォーマルサービスの活用と開発 (市民活動、NPO、生協、農協等) ・ 事業者間連携 ・施設から在宅へのサービス展開 				
④ 地域生活支援の実践		6	6	笠井 恵子
<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の生活空間を地域に広げる視点 ・ 利用者のインフォーマルなつながりの重要性 ・ 近隣への依頼・連携の方法 ・ 地域環境を生かしたケアの実践(地域との交流、外出プログラム等) ・ 地域資源とのネットワークづくり 				
⑤ 困難事例に対する援助活動の展開		6	6	笠井 恵子
<ul style="list-style-type: none"> ・ サービス拒否、多問題ケース、家族とのトラブル ・不適正事例 				
⑥ 虐待防止、消費者被害、権利擁護への対応		5	5	笠井 恵子
<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護サービスを通じての問題発見 ・ 問題が疑われる場合の対応 ・ 相談機関等の連携 ・エンパワメント、アドボケート 				
修了評価		1	1	
展開内容(最後に修了評価の時間を設けること)		時間数	通学	講師氏名
<ul style="list-style-type: none"> ● 事例やビデオ教材などを用いて具体的な利用者像を想定し、ソーシャルワーク技術を活用した具体的な援助方法、介護職員の役割等について討議し、ロールプレイなどを行うこと 				

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(9) 生活支援のためのアセスメントと計画	時間数	30時間
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ アセスメント、ケアプランの作成、各サービス計画の関係や流れを理解し、生活全体を支援するという観点から、どのような援助が必要かを考えることができる ○ 適切なアセスメント、モニタリング、カンファレンスを行うために、基本的な観察、記録、情報伝達を行うことができる 		
指導の視点			
<ul style="list-style-type: none"> ● 「ケアプラン」のアセスメント、作成方法を学び、生活全体をプランする「生活プラン」について学ばせる ● アセスメントからケアプラン作成の流れと居宅サービス計画(在宅の場合、個別サービス計画(訪問介護計画等))との関係を理解させる ● ケアプランに基づいたサービスの流れと、事業所と職種間の連携について理解させる 			
内容	時間数	通学	講師氏名
① 生活プランの考え方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活全体のアセスメント ・ 生活全体のプランニング支援 ・ 生活プランとケアプラン 	6	6	津司 真理
② ケアプランとサービス計画の内容・機能 <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設ケアプランと居宅ケアプランの内容 ・ 居宅・施設サービス計画 ・ 各サービス計画(訪問介護計画、通所介護計画)とサービスの関係 	6	6	津司 真理
③ ケアプランとサービス計画の作成手順 <ul style="list-style-type: none"> ・ アセスメントとニーズの把握 ・ 居宅ケアプランの作成 ・ ICFに基づくアセスメントや実践への展開 ・ 各サービス計画(訪問介護計画、通所介護計画)の作成 	6	6	津司 真理
④ ケアプラン・サービス計画とサービス提供の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・ ケアプラン・サービス計画に基づいたモニタリングと記録 ・ 介護職員のアセスメントと連携、ケアプラン・サービス計画の見直し 	6	6	津司 真理
⑤ 地域生活支援のための地域環境のアセスメント技術と留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の希望を把握・推測するための視点・方法 ・ 利用者のインフォーマルなつながりの把握の視点・方法 ・ 外出支援のプログラム等における安全への配慮の視点・方法 ・ 地域生活支援の際の利用者・家族への説明・同意・契約 	5	5	津司 真理
修了評価	1	1	
展開内容(最後に修了評価の時間を設けること)		時間数	講師氏名
● 事例などを用いて具体的な利用者像を想定し、情報収集、アセスメント、ケアプラン、サービス計画策定などの演習を行うこと			
● 一つの事例に対する複数のケアプランを比較検討するなど、生活全体を支援するという考え方からどのようなプランが求められるのかを考察できるよう展開すること			

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(10) 介護職員の職業倫理と職務	時間数	30時間
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 介護職員の倫理や職務、基本的マナー等について理解し、専門的な職業人としての自覚を持って行動できる ○ 利用者の尊厳が損なわれた状態(虐待やそれに類する行為)を発見する視点を持ち、改善に向けた行動ができる ○ 介護職員の職務の特性を理解した上で、心身の自己管理を適切に行い、意欲を持って職務に取り組むことができる ○ 記録の機能と重要性を理解し、適切な記録を書くことができる ○ 打合せ、引継ぎ、会議の設定、進捗ができ、適切な発言等ができる ○ 同職種間、異職種間のチームワークを適切にとることができる ○ 積極的に研修等を受講し、自己研鑽に努めることができる 		
指導の視点			
<ul style="list-style-type: none"> ● 職業人としての論理の重要性、自己管理の重要性を理解させる ● 事業別の職務内容、介護職の倫理や職務について理解させる 			
	内容	時間数	通学
	① 介護職員の職業倫理 <ul style="list-style-type: none"> ・ 倫理と尊厳の理解 ・ 専門的、総合的なサービスの提供と積極的連携 ・ 個人情報の保護と活用、情報開示 ・ 地域福祉の推進 ・ 虐待等の発見と人権の擁護 ・ 後継者の育成 ・ 所属機関と専門職としての倫理 ・ 利用者本位、自立支援、利用者の代弁 	3	3
	② 生命倫理 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生命と倫理 ・ 医療の進歩と倫理 ・ ターミナルにおける倫理(死の考え方、尊厳死と倫理) ・ 医療・看護の倫理、パターンリズム 	3	3
	③ 基本的マナー <ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶、礼儀、依頼、助言、配慮ある断り方 ・ 利用者から金品を渡された場合の対応等 	3	3
	④ 介護職員の職場の仕組みと職務内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護業務の共通性と事業別の特性 ・ ケアマネージャー、サービス提供責任者等の役割とサービス実施のプロセス(要介護認定、サービス担当者会議、サービス計画、目標に沿ったサービスの実施、モニタリング) ・ 事業の特性に応じた業務の流れ(訪問介護、施設介護、グループホーム、通所介護等) ・ 同職種内のチームワークと他職種との連携 	3	3
	⑤ サービス提供時の契約と留意事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者との契約 ・ 事故における事業者・労働者の責任 ・ 文書による確認 ・ 物品の保管 ・ 金銭管理 	3	3
	⑥ 報告、会議、記録 <ul style="list-style-type: none"> ・ 打合せ、引き継ぎ、会議の持ち方、すすめ方と発言の仕方 ・ 記録の役割と書き方、活用法 	3	3
	⑦ 介護事故等の予防と対策への組織的取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・ セーフティマネジメント ・ 感染症の予防と対策 ・ ヒヤリ・ハットの事例の活用 ・ 身体拘束の禁止 	6	6
	⑧ よいキャリアのための自己研鑽、心身の健康管理等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門職としての自覚と質の向上(OJT、Off-JT、自己啓発、資格取得) ・ 健康管理、ストレスマネジメント ・ 介護職員の労働の権利と制度 	5	5
終了評価		1	1
	展開内容(最後に修了評価の時間を設けること)	時間数	通学
	● 介護職員の職業倫理については、具体的な事例に基づき、問題点や対応策を考察できるよう展開すること		
	● 職務理解については、業務フロー等に基づいて、サービス実施プロセスや職務内容の全体像が理解できるよう展開すること		
	● 記録については、具体的な事例に基づき、記録のポイント、方法を学習すること		
	● 報告や会議については模擬カンファレンスなどを含め展開すること		
	● 介護職員のキャリアアップ及びキャリアの展望が持てるような研修や自己研鑽について、具体例を紹介する		
			講師氏名

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(11) (A)事前演習	時間数	8時間
経験目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実習の目的・経験目標について説明を受け、自らの問題意識を整理する ○ 実習中の態度・心構えについて説明を受ける <ul style="list-style-type: none"> (1)挨拶服装などのマナー、実習態度 (2)報告・連絡・相談、守秘義務、個人情報の保護、健康管理 (3)職員との関係、利用者との関係 ○ 実習記録の書き方、留意点について、指導を受ける ○ 実習施設・事業所の概要、実習日程について説明を受ける 		
指導の視点			
<ul style="list-style-type: none"> ● 実習を円滑に実施するため、研修事業者において実習の目標、スケジュール、留意点等についてオリエンテーションを行い、実習の課題、問題意識を形成させる ● 演習等により、基本的な介護技術の修得の有無を確認し、事故防止の留意点を理解させる ● 実習記録の書き方を理解させる 			
内容			
<p>(1) オリエンテーション、実施計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①施設・事業所の概要(目的・機能等)について説明と理解 ②実習目標の設定・計画・問題意識について ③基本的接遇・心構え <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、服装などのマナー ・実習態度 ・職員との関係 ・守秘義務・個人情報保護 ・健康管理 ④事故防止のための注意点 <p>(2) 実習記録について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①実習記録用紙について ②実習記録用紙の記入について 			笠井 恵子

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(11) (B)施設・居住型実習	時間数	10日間/80時間
経験目標	<p>[説明を受ける、見学・閲覧する]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 施設の概要、特徴、職員体制、利用者の概要、1日のプログラムについて説明を受ける ○ 施設の各職種の職員からそれぞれの業務の内容、チームケアの取り組みや連携について説明を受ける ○ 申し送り、カンファレンスの場面を見学する ○ 介護記録、ケアプランを閲覧する ○ 基本的な介護技術について、介護方法や内容、利用者との接し方を見学する ○ PT、OT、ST等による機能訓練の場面、医療器具や福祉用具の使用方法を見学し、説明を受ける ○ 居室の環境、バリアフリーの状況を見学し、説明を受ける ○ ボランティアの活動状況や地域の関係機関等との連携についての説明を受ける <p>[経験する]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 利用者(認知症高齢者を含む)に自ら話かけ、コミュニケーションの機会を持つ ○ 介護補助業務(食事、入浴、排泄、環境整備等)を経験する ○ 利用者とともに、レクリエーション、グループ活動、行事、作業療法、外出等に参加する ○ 実習指導者の指導の下で、福祉用具(車いす、自助具等)を利用している利用者の介護を経験する ○ 利用者に対し、実習指導者の指導の下で、食事、口腔ケア、更衣、排泄、入浴、移動等の介護を経験する ○ 一人の利用者について、個性、嗜好、暮らしの様子、習慣、人間関係等について観察し、まとめる ○ 実習記録を作成する 		
指導の視点			
<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者の個性や人間関係を理解するための着眼点を理解させる ● 介護目標を踏まえて、自立に向けた介護の考え方やプロセスを理解させる 			
内容			
<p>初日</p> <p>初日</p> <p>5日</p> <p>6日</p> <p>10日</p>	<p>・オリエンテーション</p> <p>・施設内見学</p> <p>・実習担当職員の確認</p> <p>・利用者さんへの紹介</p> <p>・実習をおこなうフロアの利用者さんの状況などの把握</p> <p>・申し送りに参加する(どんな情報を誰がどのように伝えているか見学する)</p> <p>・施設の1日の流れを把握する</p> <p>・施設の機能や職員の一般的な役割について学ぶ</p> <p>・補助業務の体験(食事の準備、おむつ交換、排泄介助などの用意、環境整備など)を職員の指示を受けて行う</p> <p>・利用者の方とのコミュニケーションを通じ、人間的な関わり方を深め、利用者な方のニーズがどんなところにあるかを知る</p> <p>・軽度者の食事・口腔ケア・衣類の着脱・排泄・移動・移乗などの介護を見学後、職員の指導の下で体験する</p> <p>・福祉用具や医療器具等の取扱法や使用場面の見学</p> <p>・レクリエーション・グループ活動・行事・作業療法等に利用者とともに参加し、利用者の生きがい作りについて学ぶ</p> <p>・実習記録の作成</p> <p style="text-align: center;">※初日～5日目の実習内容を深めるとともに、下記を加える</p> <p>・カンファレンスを見学</p> <p>・重度者への食事・口腔ケア・衣類の着脱・排泄・移動・移乗・体位変換を見学後、職員の指導の下で体験する</p> <p>・施設の機能や職員の役割の理解を深める</p> <p>・認知症の利用者への介護、援助を体験する</p> <p>・ひとりの利用者について、個性、嗜好、暮らしの様子、習慣、人間関係等について観察し、利用者を全人間的に理解し、その人らしさについてまとめる(介護課程の展開について学ぶ)</p> <p>・各職種からの聞き取りを通じ、他職種の役割について理解し、連携がどのように行われているかを知る</p> <p>・実習反省会・実習記録の完成</p>		

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(11) (C)通所、小規模多機能型実習	時間数	5日間/40時間
経験目標	<p>[説明を受ける、見学・閲覧する]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 施設の概要、特徴、職員体制、利用者の概要、1日のプログラムについて説明を受ける ○ 施設の各職種の職員からそれぞれの業務の内容、チームケアの取り組みや連携について説明を受ける ○ 居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、医療機関等との連携について説明を受ける ○ カンファレンスを見学する ○ 介護記録、ケアプラン、通所介護計画等を閲覧する ○ 基本的な介護技術について、介護方法や内容、利用者との接し方等を見学する ○ 介護予防プログラムを見学する ○ 福祉用具の使用方法について説明を受ける ○ 環境整備の方法について説明を受ける <p>[経験する]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 利用者の送迎時の介助補助、健康状態の観察、施設持参品の管理補助を経験する ○ 利用者自ら話かけ、コミュニケーションの機会を持つ ○ 利用者とともに、レクリエーション、グループ活動、行事、作業療法、外出等に参加する ○ 利用者に対し、実習指導者の下で、食事、口腔ケア、更衣、排泄、入浴、移動等の介護を経験する ○ 実習記録を作成する 		
指導の視点			
<ul style="list-style-type: none"> ● 通所系サービスの機能・内容及び他の居宅サービスとの連携を理解させる ● 利用者の個性や人間関係を理解するための着眼点を理解させる ● 介護目標を踏まえて、自立に向けた介護の考え方やプロセスを理解させる 			
内容			
初日 5 3日	<p>・オリエンテーション・施設内見学・職員の紹介・通ってこられる利用者さんの状態等の把握(通所人数等も)</p> <p>・朝のミーティングに参加する (どんな情報を誰がどのように伝えているか見学する)</p> <p>・通所施設(デイサービス、デイケア)に1日のプログラムを把握する</p> <p>・通所施設の機能や職員の役割について学ぶ</p> <p>・送迎車乗降介助の補助(工夫されていることの発見)</p> <p>・到着時受け入れの健康状況観察補助及び介助</p> <p>・私物持参品の管理補助・個別生活支援</p> <p>・補助業務の体験(食事の準備・排泄介助等の用意・環境整備等を職員の指示を受けて行う)</p> <p>・利用者の方とのコミュニケーションを通じ、人間的な関わり方を深め、利用者のニーズがどんなところにあるかを知る</p> <p>・軽度者の食事・口腔ケア・衣類の着脱・排泄・移動・乗降などの介護を見学後、職員の指導の下で体験する</p> <p>・通所介護施設での福祉用具の取扱・使用法や自助具の活用などを学ぶ</p> <p>・レクリエーション・グループ活動・行事・作業療法等に利用者とともに参加し、利用者の生きがい作りについて学ぶ</p> <p>・認知症の利用者への介護、援助を経験する</p> <p>・各職種間(相談員・介護職員・ドライバー・看護師等)の連携について、どんな工夫がなされているかを知る</p> <p>(例えば医療的な処置は看護師、介護面からは介護職など)</p> <p>・帰宅時の送りの健康状況観察補助及び介護。家族との心理的支援を含めた関わり方等</p> <p>・通所介護計画・記録等の閲覧。カンファレンス見学</p> <p>・実習反省会・実習記録の完成</p>		

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(11) (D)訪問介護実習	時間数	5日間/40時間
経験目標	<p>[説明を受ける、見学・閲覧する]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事業所の概要、特徴、職員体制、利用者について説明を受ける ○ 事業所内での業務(チームケアのシステム、業務管理の仕組み)について説明を受ける ○ 居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、医療機関等との連携について説明を受ける ○ カンファレンスを見学する ○ 訪問記録、訪問介護計画等を閲覧する ○ サービス提供責任者や担当ヘルパーに同行し、介護や利用者の生活環境に応じた家事援助に応じた家事援助の内容、利用者への接し方を学ぶ <p>[経験する]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 利用者、家族とのコミュニケーションの機会を持つ ○ 実習指導者の指導の下で、利用者に対する身体介護、家事援助を経験する ○ 実習記録を作成する 		
指導の視点			
<ul style="list-style-type: none"> ● 訪問介護サービスの機能・内容及び他の居宅サービス等との連携を理解させる ● 関係機関との連携や社会資源の活用状況について理解させる ● 利用者を取り巻く家族関係を理解し、配慮することの重要性を理解させる ● 在宅の生活、利用者の日常生活の多様性、および介護の工夫の現状と自立に向けた支援の考え方について理解させる 			
内容			
初日 1 2日	<p>・オリエンテーション・実習担当職員の紹介</p> <p>・訪問する利用者さんの状態等の把握、および、利用者宅までの地図などを使って行き方の説明(可能であれば訪問介護計画の閲覧)</p> <p>・移動時・訪問時の留意点等の説明</p> <p>・利用者宅にて、利用者の紹介</p> <p>・同行の訪問介護職員と利用者の信頼関係にのっとったコミュニケーションの方法を観察し、ニーズの引き出し方等について学ぶ</p> <p>・訪問介護員による生活援助(家事援助)の実際を体験する</p> <p>・訪問介護員による身体介護の実際を体験する</p> <p>・利用者の方とのコミュニケーションを通じ、人間的な関わり方を深め、利用者のニーズがどんなところにあるかを知る</p> <p>・家族(介護者)との心理的支援を含めた関わり方を学ぶ</p> <p>・担当の訪問介護職員とサービス提供責任者、介護支援専門員や訪問看護師等の他職種との連携について、どんな工夫がなされているかチームケアの特色を知る</p> <p>・可能であればサービス提供責任者の業務の流れや、やりがい等について、サービス責任者にインタビュー等を行う</p> <p>・訪問記録(訪問日誌)等の記録等の注意点について学ぶ</p> <p>・カンファレンス見学</p> <p>・実習反省会・実習記録の完成</p>		

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(11) (E)地域の社会資源実習	時間数	4時間
経験目標	○ 地域の社会資源(介護保険事業以外のNPO、ボランティアグループ、当事者団体、社会福祉協議会等)を訪問し、活動の見学や活動者に対するインタビューを行い、地域の中で暮らしを豊かにしていくための活動、サポートのあり方を考察する		
指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の社会資源として現実にどんなものが存在しているのかを理解させる ● 地域の社会資源など、必要な情報をどんな所で得ることが出来るのか理解させる ● 地域の社会資源や、サポートシステムがどう構築されているか理解させる 		
内容			
<p>1. 実習先 ボランティアグループ 友の会 ひまわり</p> <p>2. 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアグループ 友の会 ひまわりの概要説明など地域の社会資源について知る ・訪問は5名程度のグループで担当の実習先を決定し、訪問する ・実習先にて、地域の高齢者をはじめとする地域住民の日常の暮らしを豊かにしていくことに貢献している団体の活動状況の説明を受けたり、活動を見学 ・実習先にて、活動している職員にインタビューを行ったり、資料を見せていただいたりして、地域に向けて介護保険以外のサービスがどのように行われているかグループで協力しあい、まとめる <p>3. 事後報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで調べた地域の社会資源について、グループ毎に役割を決定し発表する ・実習先毎に異なる点や類似点など、情報を共有する ・地域で活動している団体関係者にも、可能な限り参加を得て、助言指導を受け地域資源についての理解を深め 			

シラバス(介護職員基礎研修)

科目名	(11) (F)事後演習	時間数	8時間
経験目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実習中に記録した経験の内容、気づき、反省点、自己の介護観等をまとめ、実習目標及び実習計画に照らして達成状況を確認する ○ 実習終了後、以下の点について、事故を振り返り、お互いに発表、話し合い、検討を行う <ul style="list-style-type: none"> (1)実習全般を通して率直な印象や感想、気づいたこと、学んだことについて (2)基本的な技術に基づいて介護できたか、また介護の根拠について (3)自己の介護技術において、自分としてうまくいった点及びその背景、理由について (4)職員との関わりや利用者との関わりにおいて、自分としてうまくいった点、いかなかった点、及びその背景理由について (5)疑問な点や不安な点及び今後それらに対して介護職員としてどのように考え対処すべきかについて (6)介護職員としての今後のあり方(目標・課題)について ○ 介護課程の観点から、介護職員の職務や、記録の書き方について振り返って考察する ○ 利用者の生活やニーズを出発点に、介護職員の業務、役割及びフォーマル、インフォーマルな社会資源の意義について振り返って考察する 		
指導の視点			
<ul style="list-style-type: none"> ● 実習の経験、事故の介護観等をまとめ、他の受講者の経験と比較、相対化し、学びの共有化、意味づけを行う ● 介護の現場における理想と現実の違いについて理解、認識させる ● 介護行為の根拠となっている知識や基本的な介護技術を再認識させる 			
内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・実習計画、実習目標及び実習記録をもとに自己の実習を振り返り、気づいた点、反省点、介護観等について発表する ・実習レポートとしてまとめる ・グループワーク等により、実習レポートの内容について他の受講者と話し合い、検討を行う ・反省とまとめ 			